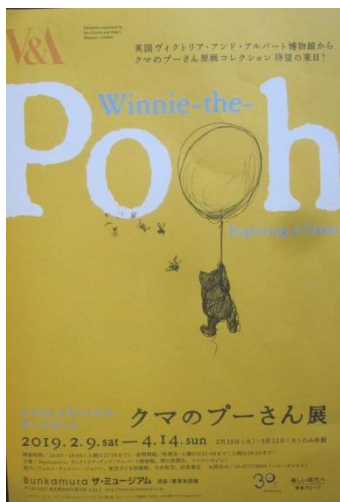


クマのプーサン展

Bunkamura ザ・ミュージアム（渋谷） 2019.02.09～04.14

あべのハルカス美術館（大阪） 2019.04.27～06.30



「クマのプーサン」は、作家の「A・A・ミルン」と挿絵画家「E・H・シェパード」の共作によって誕生した世界の児童文学の中で最も人気のある作品のひとつで、現在、50以上の言語に翻訳され5000万部以上のシリーズ本が出版されているとされている。

本展は、「シェパード」の鉛筆素描画「プーサンの【原画】」を大規模で所蔵する、イギリス・ビクトリア・アンド・アルバート博物館から「200点以上」もの作品や制作資料などが来日・展示され、名作の「クマのプーサン」がどのように生まれ、愛されてきたのかの秘密を探る企画として注目されている。

物語の誕生秘話を公開するのは、「ミルンの息子」とお馴染みのキャラクターであるぬいぐるみ「プー」が、モデルとなった週末に過ごした近所の「百町森」を舞台にして、作品のもとになったストーリーが写真と共に紹介されている。

「クマのプーサン」のストーリーは、遊び心たっぷりの空想から作られたもので、作者の幸せな少年時代を重ねながら思い浮かべた物語や、そこで生まれたユニークなキャラクターたちのそんな物語を、解釈してイラストとして表現した「シェパード」が描いた作品も数多く紹介されていて注目されている。



シェパード 鉛筆画



《グングン くつをひっぱったので・・・》